

議題（５）評価基準（案）について

（参考）見直し基準値の考え方

<バス停 1日あたりの利用者数>

- ・ Mバス利用者の乗降調査の結果より、1日のバス停の利用者数が50人以上の停留所では、全て複数のルートが走行している。
よって、50人以上の停留所の場合は向上の検討を行うための基準とした。
- ・ 新しいバスの1日あたりの利用者数(予測値:906人)を新しいバスの全停留所数(88箇所)で除したとき、

$$906 \div 88 = 10.30$$

となり、平均値が約10人となるので、平均値を下回る場合は改善の検討を行うための基準とした。

<バス 1便あたりの利用者数>

- ・ 1便あたり(全ルート平均、10.5便/日)の経費は約6300円/便、利用者は約17.3人/便
- ・ 新しいバスの1人あたりの支払い額は、

$$((330,690 - 191,800) \times 200 + 191,800 \times 100) / 330,690 = 142.00$$

となり、1人あたり142円となる。

- ・ 1便あたりの利用者と運賃収入率の関係より、

$$1 \text{ 便の利用者 } 27 \text{ 人の場合、運賃収入率 } 61.2\%$$

ここで、1便増便した場合、増便分の前後を合わせた3便で見ると

$$1 \text{ 便平均の利用者 } 18 \text{ 人、運賃収入率 } 40.6\%$$

となり、前提条件である運賃収入率35%を上回るため、1便あたり27人以上の場合は向上の検討を行う基準とした。

- ・ 1便あたりの利用者と運賃収入率の関係より、

$$1 \text{ 便の利用者 } 15 \text{ 人の場合、運賃収入率 } 34.0\%$$

となり、前提条件である運賃収入率35%を下回るため、1便あたり15人以下の場合は改善の検討を行う基準とした。

<収支率>

- ・ その他収入が経済状況の悪化等の諸事情で確保できなかった場合に、割引運賃の適用範囲を拡大(例:適用年齢を70歳以上 65歳以上)を検討するには、実施前の収支率が65%の場合なら、

$$\text{運賃収入} : 120,000,000 \times 0.65 = 78,000,000 \text{ 円}$$

$$\text{この場合の利用者数(年間)} : 457,746 \text{ 人(65歳以上は } 334,154 \text{ 人)}$$

となり、割引運賃の範囲を拡大した場合の収支率は、

$$((457,746 - 334,154) \times 200 + 334,154 \times 100) / 120,000,000 = 0.514$$

となり、目標値(50%)を上回るため、収支率が65%以上の場合は向上の検討を行う基準とした。

- ・ 改善の検討を行うための基準は、目標値(50%)を下回る場合なので、目標値をそのまま設定した。